新医学系指針対応「情報公開文書」改訂フォーム　　単施設研究用

〇胸腺上皮性腫瘍における上皮間葉転換（EMT）の関与と予後に関する研究

１．研究の対象

2007 年 1 月～2022 年 12 月に当院で胸腺腫または胸腺癌の手術を受けられた方

２．研究目的・方法

研究目的

悪性腫瘍は、異常な細胞が無制御に増殖し、正常な組織を破壊する病気です。

胸腺上皮性腫瘍は、縦隔腫瘍の中では最も多い悪性腫瘍ですが、肺癌に比べて稀であり、有効な治療法が少なく、新たな治療法を開発する必要があります。

通常、正常な細胞は、上皮細胞と間葉細胞のいずれかの細胞型に分化し、それぞれの役割を果たします。正常な胸腺組織に悪性腫瘍が発生すると、悪性腫瘍において上皮細胞が無秩序に間葉細胞に変化して、組織の正常な構造を乱し、癌細胞が異なる組織に侵入し、そして転移する可能性が出てきます。

上皮間葉転換に関わる因子について、手術で摘出した腫瘍組織のタンパク質を免疫組織学（immunohisitochemistry: IHC）の手法を用いて、上皮間葉転換を引き起こす因子があるかどうかを調べることによって、この病気の治療後の結果を予測することができるようになるかもしれません。

研究方法

【方法】

2007 年 1 月から 2022 年 12 月まで高知大学医学部呼吸器外科で手術した胸腺上皮性腫瘍の患者さんの切除標本を保管してあります。保管されている標本のごく一部を使用して、未染スライドを作製し、上皮間葉転換を引き起こす Snail, Slug, Twist, ZEB1, ZEB2 などの転写因子やタンパク質 E カドヘリン、β カテニン、アクチン、チューブリン、ミオシン、TGF β、FGF, HGF, EGF などについて免疫染色を行います。

免疫染色の結果と、対象患者の腫瘍についての様々な情報を組み合わせを検討し、上皮間葉転換と予後との関連を分析します。

【研究期間】

この臨床研究の研究期間は 2023 年倫理委員会承認日から 2024 年 3 月 31 日を予定しています。

３．研究に用いる試料・情報の種類

患者さんは、個人を特定出来ないように匿名化して研究を進めます。手術を行った時の年齢・性別・ 手術で摘出した腫瘍組織の病理組織診断、免疫染色の結果、病理組織型(WHO 分類)、正岡病期分類、腫瘍径、再発の有無、術後の生存期間です。

４．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
高知大学医学部呼吸器外科学講座
岡田　浩晋
電話番号　088-888-0414
研究責任者：
高知大学医学部呼吸器外科学講座　助教　岡田　浩晋